

令和 6 年度

砂防・地すべり技術センター研究開発助成の対象課題決定

当センターでは、「砂防・地すべり技術センター研究開発助成事業」として、平成 4 (1992)年度より、砂防並びに地すべり及びがけ崩れ対策に関する技術開発及び調査研究を対象に、新たな施策の展開を目指すテーマで優れた人材を結集し十分な遂行能力を有する研究者に対して、助成してきました。

この度、厳正なる審査の結果、令和 6 年度の研究開発助成の対象となる以下の 9 課題が決定しました。

※五十音順（代表者）

| 研究課題 | 代表者 | 代表者所属 (申請時) |
|---|-----------|----------------|
| 高精細多層地表情報計測と高密度地下水動態観測のリンクに基づく活発な地すべりの動態把握 | 笠井 美青 | 北海道大学大学院 |
| 植生根系を考慮した斜面安定性評価とその活用による崩壊対策の提案 | 五味 高志 | 名古屋大学大学院 |
| ヒマラヤ地域における森林等の生態系を活かした防災・減災(Eco-DRR)の効果的展開と社会経済への影響:ネパールの事例研究 | ツォウ・チンイン | 弘前大学 |
| 土石流挙動に河床条件が及ぼす影響を考慮した防災対策の検討 | 中谷 加奈 | 京都大学防災研究所 |
| デジタルツインを活用した土砂災害のソフト対策に関する研究 | ハザリカ・ハマント | 九州大学大学院 |
| 能登半島地震による輪島・珠洲地域の斜面変動現象の解明と減災施策の検討 | 古谷 元 | 富山県立大学 |
| SPH-DEM解析による土砂流動中の粒子群と間隙水の力学的相互作用に関するミクروسケール評価 | 松田 達也 | 豊橋技術科学大学 |
| 大規模土砂移動現象が土砂流出に与える影響:長期観測に基づく解析 | 宮田 秀介 | 京都大学大学院 |
| 弾塑性FEMと観測地表面変位ベクトルに基づくすべり面形状推定とその三次元化 | 若井 明彦 | 群馬大学大学院 |

当センターでは、国土の保全と国民生活の安定に向け、この研究開発助成などを通じて、砂防等の技術に関連する他の領域との調和を図り、かつ民間の知識を集約した試験研究を行うことにより、砂防並びに地すべり及びがけ崩れ対策に関する技術の向上を図るとともに、これらの事業を効率的な実施につなげてまいります。